

④住宅の誘導基準の水準の仕様基準(誘導仕様基準)の新設について

住宅の誘導基準の水準の仕様基準(誘導仕様基準)の新設について

- 建築物省エネ法に基づく誘導基準、低炭素建築物・長期優良住宅の認定基準について、ZEH・ZEB基準の水準の省エネ性能に引上げること※、2030年度以降新築される住宅・建築物について、ZEH・ZEB基準の水準の省エネ性能の確保を目指すことを受け、特に着工件数の多い住宅について、**省エネ計算によらずZEH水準の省エネ性能(誘導基準等)の適合確認が可能となる仕様基準(誘導仕様基準)を設定する。**
- 誘導仕様基準は、現行の省エネ基準の仕様基準と同様、建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令(平成28年1月29日経済産業省・国土交通省令第1号)において新たに位置付け、具体の基準は、住宅部分の外壁、窓等を通しての熱の損失の防止に関する基準及び一次エネルギー消費量に関する基準(平成28年1月29日国土交通省告示第266号)に追加、または誘導仕様基準告示を新設し定める。

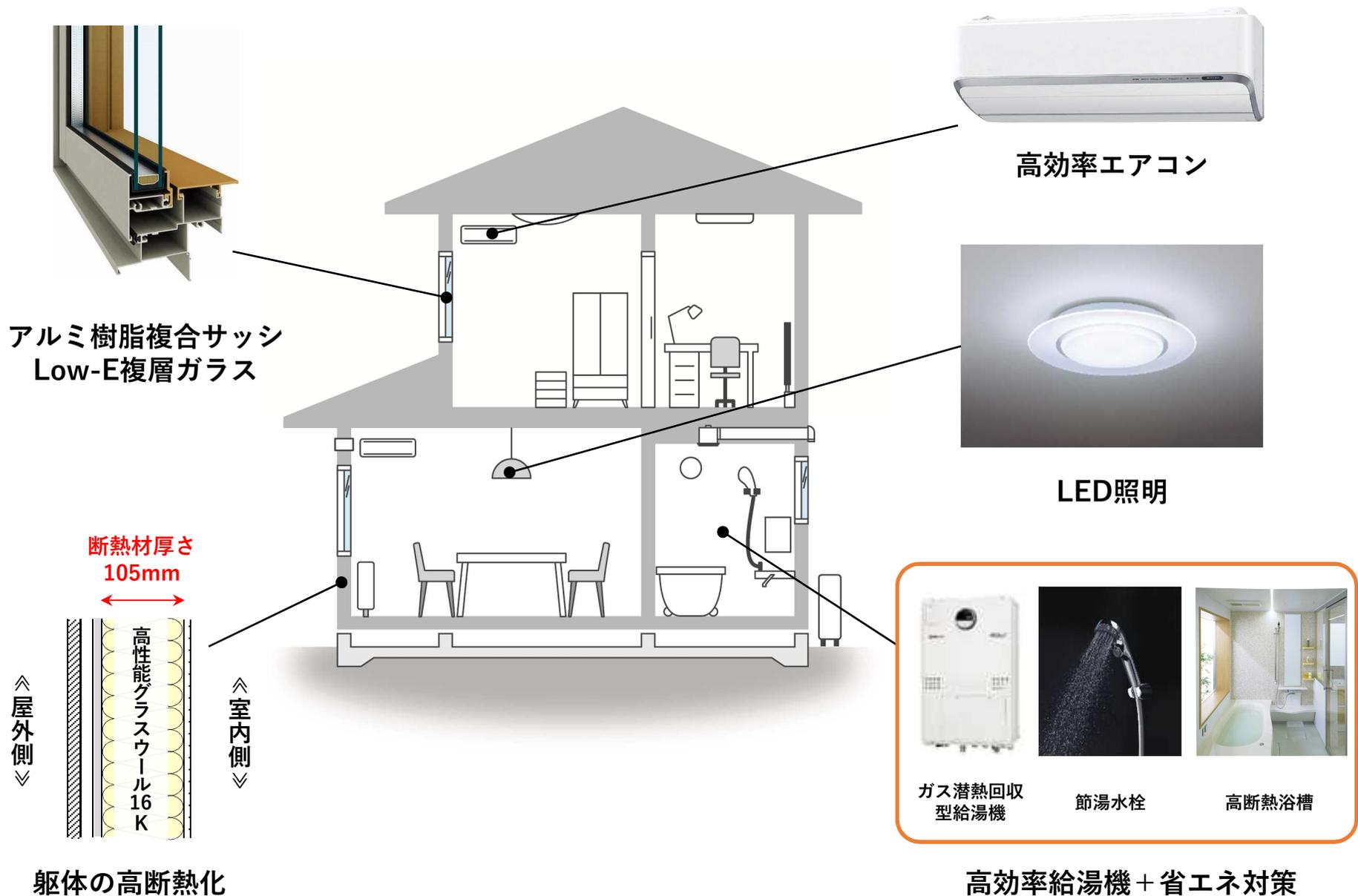
※ 建築物省エネ法に基づく誘導基準、低炭素建築物認定基準の見直しは、令和3年11月合同会議において審議済。

■現行の住宅の評価方法

基準の水準	標準計算 (戸建住宅・共同住宅)	簡素な評価方法		
		モデル住宅法 (戸建住宅)	フロア入力法 (共同住宅)	仕様ルート (戸建住宅・共同住宅)
	パソコン等を用いて行う 精緻に性能を評価	手計算で行う 簡易な性能評価	フロアごとに単純化した 住戸モデルで計算する 簡易な性能評価	住戸の各部位・設備の 仕様から基準への適否 を判断
省エネ基準	○	○ (説明義務制度対応として、 R3.4.1より導入)	○ (説明義務制度対応として、 R2.4.1より導入)	○
ZEH基準 (誘導基準)	○	×	×	×⇒○

■想定する主な効果

- ・ 計算に不慣れな設計者等の利用による住宅の省エネ性能のボリュームゾーンのレベルアップ
- ・ 性能向上計画認定、低炭素建築物認定、補助金等の誘導措置にかかる適合確認の簡素合理化
- ・ 将来的な義務基準の引き上げ後の基準適合確認の簡素合理化



【参考】現行の戸建住宅の評価方法の概要

評価方法		性能基準		仕様基準
		標準計算	モデル住宅法	
特徴		パソコン等で行う精緻な評価方法		仕様で判断する評価方法
外皮性能	計算ツール	外皮計算用Excel等 (標準計算)	外皮計算用Excel等 (簡易計算)	—
	部位毎の面積・長さ	計算する	計算しない (固定値を使用)	計算しない (計算する方法も有)
	部位毎の外皮性能	各部材の熱伝導率等より 部位の外皮性能を計算		仕様基準への 適合確認
一次エネルギー性能	計算ツール	WEBプログラム (詳細入力)	WEBプログラム (簡易入力)	—
	設備毎の性能・仕様	設置する各設備の 性能・仕様を入力	設備設置の有無と 設備の種類を入力	仕様基準への 適合確認
	太陽光発電設備等	設備の性能・仕様 を入力可能	詳細入力に移動する ことで評価可能	考慮できない
留意点		—	住宅トップランナー制度、性能向上計画認定制度、住宅性能表示制度、BELS等には使用不可	—

精緻／
作業量大



おおまか／
作業量小

【参考】現行の共同住宅等の評価方法の概要

評価方法		性能基準		仕様基準
		標準計算	フロア入力法	
特徴		住戸毎に計算する 精緻な評価方法	フロア毎に単純化した 住戸モデルで計算する 簡易な評価方法	全住戸の仕様で 判断する評価方法
外皮性能	計算ツール	外皮計算用Excel等	共同住宅フロア入力法 計算プログラム	—
	部位毎の 面積・長さ	各住戸の部位毎に計算する	フロア毎の住戸部分の 外周長さ等を計算する	計算しない (計算する方法も有)
	部位毎の外皮性能	各部材の熱伝導率等より 部位の外皮性能を計算	各部材の熱伝導率等より 部位の外皮性能を計算	住戸毎に 仕様基準への適合確認
一次 エネ 性能	計算ツール	WEBプログラム +集計プログラム (共用部は非住宅版で計算)	WEBプログラム +集計プログラム (共用部は非住宅版で計算)	—
	設備毎の性能・仕様	各住戸に設置する設備の 性能・仕様を入力	フロア毎の代表的な設備の 性能・仕様を入力	住戸毎に 仕様基準への適合確認
留意点		—	<ul style="list-style-type: none"> 住棟評価専用 住宅トップランナー制度、 性能向上計画認定制度、住 宅性能表示制度、BELS 等には使用不可 	—

精緻/
作業量大 ←



→ おおまか/
作業量小